

学校企画実施計画書

1. 「学校企画」

2. 企画テーマ名称

- (1) 点訳歌詞データベース構築を目的とするボランティア学習の試行
- (2) - 地域のボランティアサークルとの連携を活かして -

3. 企画のねらい

バリアフリーという言葉が一般的なものとなり、社会や街も少しずつではあるが、障害者にとっても暮らしやすいものとなってきた。しかし、鉄道会社の点字表記の間違いなど、まだまだ、作れば終わり、後のことには責任を持たないというような風潮があるのも確かである。これらの問題点を是正し、いわゆるノーマライゼーションの社会を作っていくためには、行政への対応を求めるだけでなく、個人レベルでのノーマライゼーションに対する意識が重要である。そのためには、学校教育におけるボランティア学習のバリエーションの拡大と充実に求められている。

本校では点訳ソフトを使っているボランティア学習をすでに5年前から初めている。当時は点字でプリントアウトした手紙を県立の盲学校に送り文通をしていた。ネットの普及により、本校も相手校にもネットが接続され手紙による文通からメール交換へとその形が変わってきていた。

本研究では、新たな活動として、情報機器を活かしたボランティア学習を考えた。選択授業の中で、パソコンと点訳ソフトを用いて、生徒が最新のヒット曲の歌詞を点訳し、ボランティアグループを通して視覚障害者のもとへ届けるという活動である。視覚障害を持つ方の中にもカラオケを楽しんでおられる方は多い。通常は、歌詞カードを、点字版を使って一つ一つ点訳をするため、新しいものが次々と流行しては消えていく歌を歌詞にしていくことは困難であるという。これをパソコンの点訳ソフトを使い、歌詞をデータベースに保存し、必要に応じてプリンターを使って歌詞カードを印字できるようにすれば、最新のヒット曲にも対応することができるであろう。この活動によって視覚障害者のレクリエーション、社会参加に寄与することができると思う。

この活動を中学生が主体的に行うことを通して、ヒットしそうな楽曲を敏感にとらえる「若い感性」という点で、障害者と健常者に差がないことが自然に理解できると同時に、いち早く歌詞を点訳するという点で、情報機器が非常に有効な手段となることも理解できるものと思う。前年度からこの活動を始め、1年間で30曲ほどの歌詞を点訳することができた。この実践について地域の方々に声をかけたところ反響が大きく、生徒への教育効果も考えられるためさらに活動を広めていくことにした。

本研究が実施でき、成果を上げることができれば、中学生が作成した歌詞のデータベース利用が増えることが予測できる。これまで、点字版を用いた点訳方法に比べ、比較にならないほど多くの視覚障害者に活用される可能性を秘めたこの手法は、中学生のボランティアに対する意欲を、より一層向上させるだけでなく、デジタルデバイドの対象者になってしまいがちな視覚障害者にとっても非常に有効な歌詞の点訳データベースを構築させることができよう。そして、この活動や学習を通じてふれあう視覚障害者の方々との交流が実現できれば、双方の心の成長にも影響を与えるものとなる。

さらにこの活動を通して日本ではまだまだ「ボランティア＝ただ働き」との考え方が根強いボランティア活動に対する社会の認識を改めさせる機会にしたい。自分の意志で楽しみながら

活動に取り組むことは、自分自身の成長にも大きな影響を与えることになることが実証できるであろう。

4．企画の概要

(1) 中学 3 年生 選択教科 (国語)

(2) 実施内容

昨年度から始めた歌詞の点訳、データベース化をさらに進めていきたい。今年度は学校内だけにとどめるのではなく、次の 3 つの機関との連携を強めていきたいと考えている。

1) ボランティアグループとの連携。

この活動に協力していただいている「生駒市点訳グループやまなみ」には初めは点字の手紙を校正してもらっていたにとどまっていたが、今年度は歌詞作成、点字の歌本づくり、データベース化、またさらにネットワークを利用しての視覚障害者へのデータの送付などで、そのノウハウを互いに構築していきたいと考える。

2) 地域との連携。保護者、また過去四年間の卒業生を初め、地域にもこのような活動に興味を持っている人は多い。しかし、パソコンや点字プリンターなど、ハード面で、なかなか活動したくてもできない現状がある。幸い、本校にはデスクトップ型のパソコンや点字プリンターなどのハードはすでに保有している。これらを地域の方々に開放することによって、この活動を理解していただくとともに、いっしょに活動することによって成果を実感・共有できる。

3) 盲学校との連携。これまで文通をしてきた経験をふまえ、これからは盲学校の生徒にアドバイザーとしての協力をお願いしたい。この活動を本当に視覚障害者のためになるように、よりよくしていくためにもこの連携は必要不可欠である。

以上の取り組みを週一時間の選択授業、夏期休業などの中で行っていきたい。評価に関しては 1 2 月の選択授業を終了する際反省とともに行う予定である。

5．授業実施計画

(1) 実施体制

選択授業担当者 2 名 長野真司 岡田知也

協力組織：保護者有志：ティームティーチング形式による授業の補助

地元点訳ボランティアサークル「やまなみ」(昨年度と同等なら 4 名)

(点字指導、点訳の校正、データベース化、視覚障害者への歌詞配布

冊子は月一回、定期的に発行し、視覚障害者への宣伝を行う)

盲学校

(冊子を使ってみて改良する点などのアドバイス。また、同じ世代としての中学生との交流)

(2) 実施スケジュール

期間：5 月～ 1 2 月

授業は週 1 時間、水曜日 5 限目 () 内は予定授業回数

4 月 ボランティア団体との打ち合わせ

選択授業オリエンテーション

5月(3回)

パソコンの起動の仕方、点訳ソフトの使い方
点字を覚え、タイピング練習をする
冊子に載せるための自己紹介の作成
活動を紹介するためのwebページの作成

(<http://www1.kcn.ne.jp/school/kita-j/kyouka/sentakutenyaku/tenyaku.htm>)

6月(4回)

ボランティア団体との打ち合わせ
盲学校へ第一回目のメールを送る
歌詞の点訳作業

7月(1回)

歌詞の点訳作業

8月 研修(盲学校との交流及び講演会・日本点字図書館への実地調査及び研修)

・盲学校生徒から冊子のについての意見を聞き、今後の冊子作りに生かせるようにする

・選択授業・国際理解(車いすの分解修理を行っている)との合同で駅のバリアフリーマップ作り

(<http://www1.kcn.ne.jp/school/kita-j/kyouka/sentakuvolunteer/volunteer.htm>)

9月(3回)

ボランティア団体との打ち合わせ 歌詞の点訳作業

10月(4回)

ボランティア団体との打ち合わせ 歌詞の点訳作業

11月(1回)

ボランティア団体との打ち合わせ 歌詞の点訳作業

12月(1回)

総括(ボランティア団体・盲学校との次年度へ向けての打ち合わせ)

(3) 実施環境

デスクトップ型コンピュータ20台

ネットワーク(接続済み)

点字プリンター1台

点訳ソフト(IBM社製 Win-bes99・フリーソフト)

(4) 参加生徒

中学3年生 7人

(5) 指導案

別紙3枚